

公共住宅標準詳細設計図集

R-3.9

中央部上層(図部)は、層部上層部を1本おきに渡すことを標準とする。

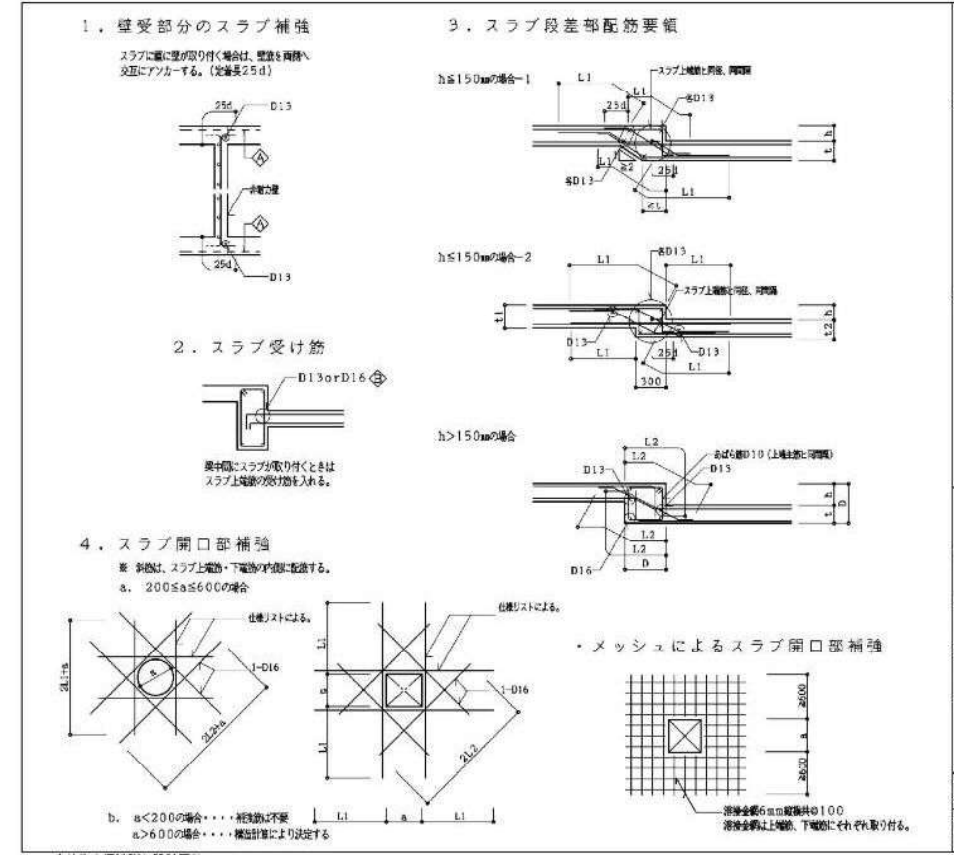
柱間部の配筋は、柱間部の配筋の1/2(断面比)かつ下層の値以上とする。

柱間部端部上層部	柱間部下層部
D10 φ150	D10 φ250
D10 φ200	D10 φ250
D10 φ250	D10 φ250
D10 φ300	D10 φ250
D10 D13φ150	D10 φ200
D10 D13φ200	D10 φ250
D10 D13φ250	D10 φ250
D10 D13φ300	D10 φ250

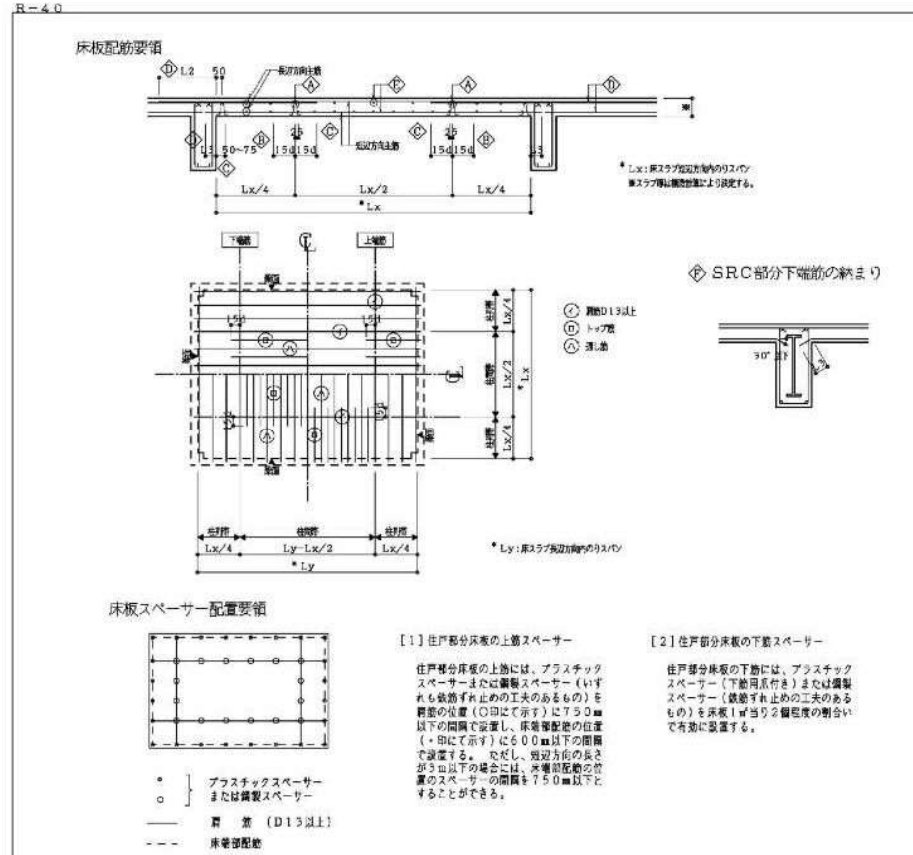
D13のみときは上層のD10をD13と読みかえて適用する。

3. 辺固定1辺自由スラブ[1]、[2]の場合は、モリア配筋とする。

名称: 床板(その1)  
 縮尺: R-51-1



公共住宅標準詳細設計図集



公共住宅標準詳細設計図集

R-4.0

鉄筋はD13以上とする。この位置のスプーは、床板スプー配置要領により配する。

主筋のトップ筋はLx/4(長辺方向もLx/4)より15φは張る。

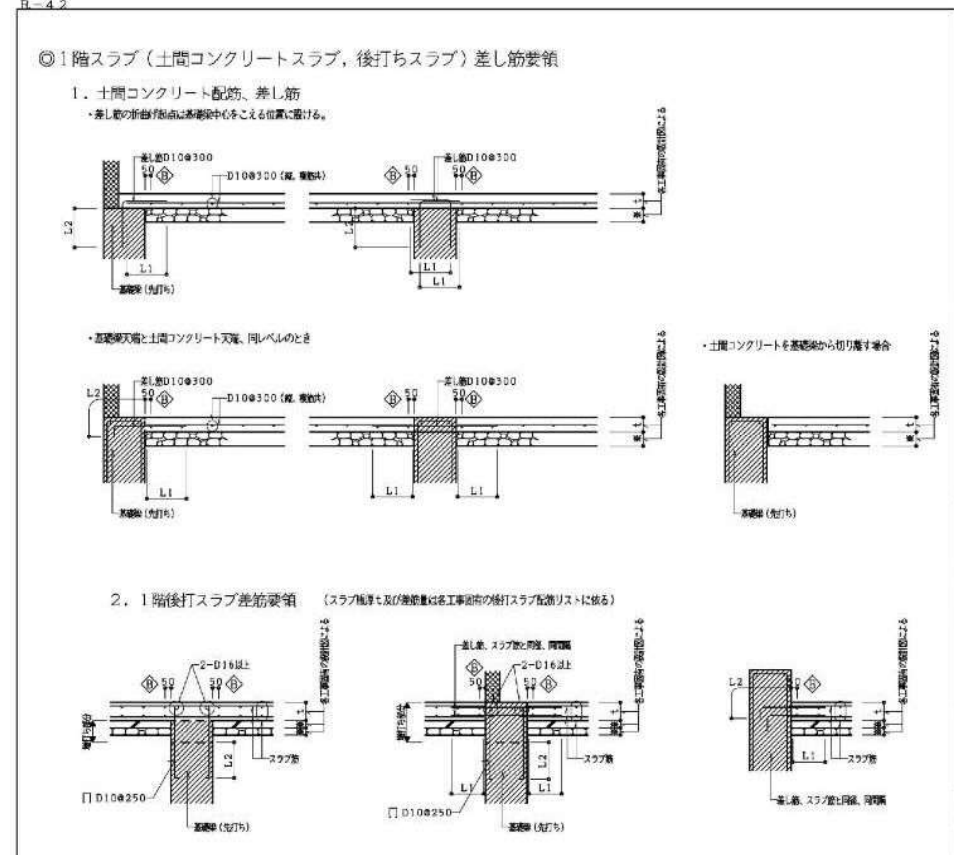
サポート部分の下層筋は、バーサート等に当たらないように25mm程度ずらすして配筋する。

上層筋の定数はL2とし、隣接スラブに定数を渡す場合はL3としてよい。柱間部上層筋は梁中に引手を取らないことが望ましい。下層筋の定数はL3とし、隣接スラブに定数を渡す場合は上層筋と同様な処理をしてよい。

柱間部中央上層筋は短辺上層筋を1本おきに渡す。

SRCの場合のスラブ下層筋は、鉄骨にぶつかるとはならないので、鉄骨にぶつかるとはならない範囲で梁面から引手を取ってよい。

名称: 床板(その4)  
 縮尺: R-51-4



公共住宅標準詳細設計図集

谷建築事務所	株式会社 本田建築設計事務所	平針住宅建築工事(第11工区)	図面番号
一級建築士 登録第173794号 構造設計一級建築士登録番号 第0430号 谷 洋	一級建築士 登録第73615号 代表取締役 本田 伸太郎	配筋基準図(7)	縮尺 A1: 二 A3: 一 No. S07
構造関係規定に適合することを 確認した。	検 図	設 計 令和元年 6月	愛知県建築局公共建築部公営住宅課





ボーリング柱状図

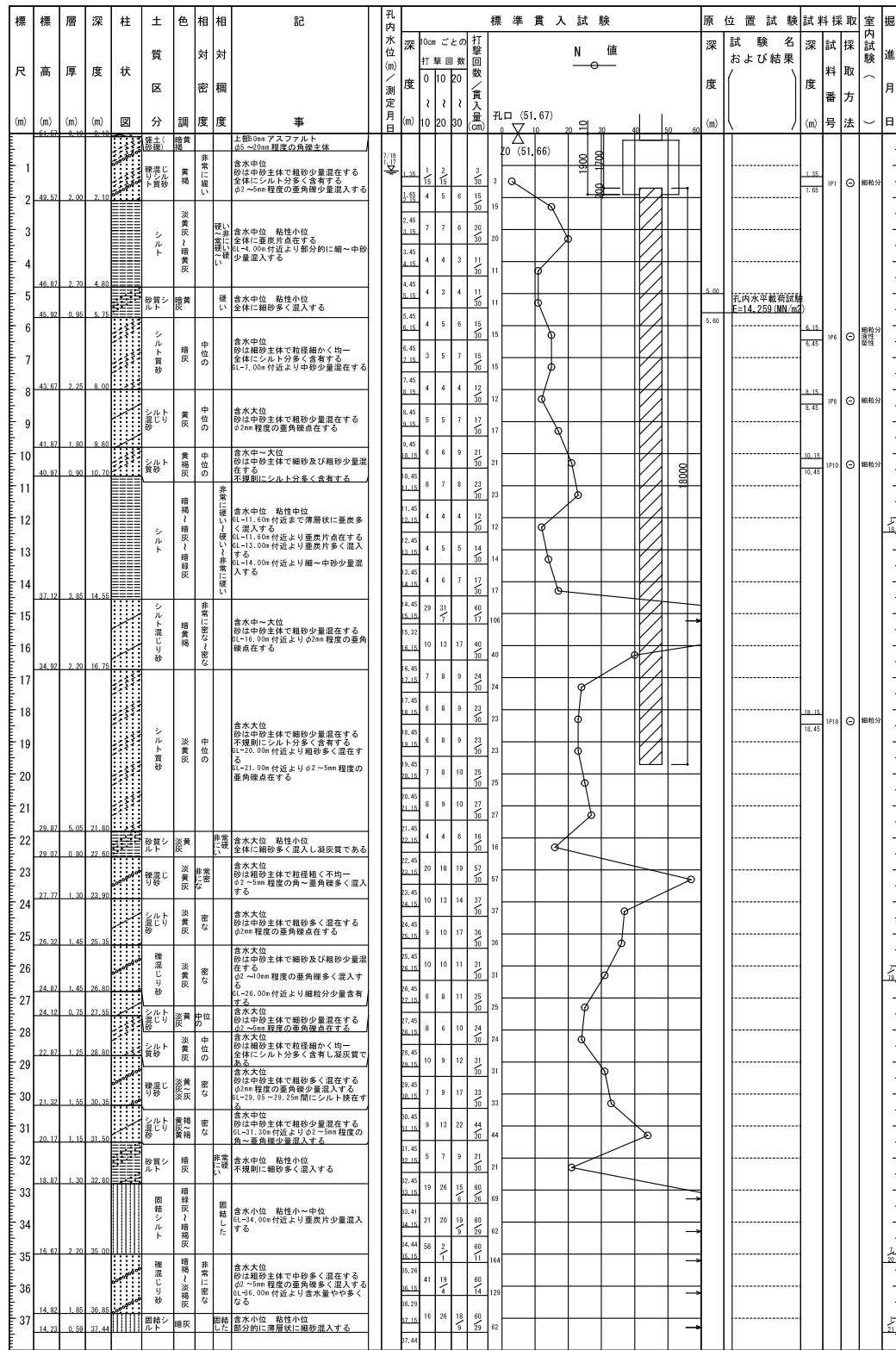
調査名 平成29年度 平針住宅地質調査(第5次)

ボーリングNo. 5 2 3 7 5 0 3 0 0 0 1

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	No. 1	調査位置	名古屋市長白区平針南三丁目地内		北緯	35° 6' 35.1"	
発注機関	愛知県建設部建築局公営住宅課		調査期間	平成29年7月18日～29年7月21日	東経	137° 0' 18.1"	
調査業者名	富士興業株式会社 電話 052-781-5871	主任技師	田中 史郎	現代理人	上田 洋二	コピア 確定者	上田 洋二
ボーリング責任者	宮崎 晶三		試験機	YBM-05DA-2	ハンマー	落下用具	
使用機	半自動落下装置		エンジン	YANMAR NFD10	ポンプ	YBM GP-5	
孔口標高	T.P. +51.67m	角	方		地盤勾配		
総掘進長	37.44m	度	向		使用機		



ボーリング柱状図

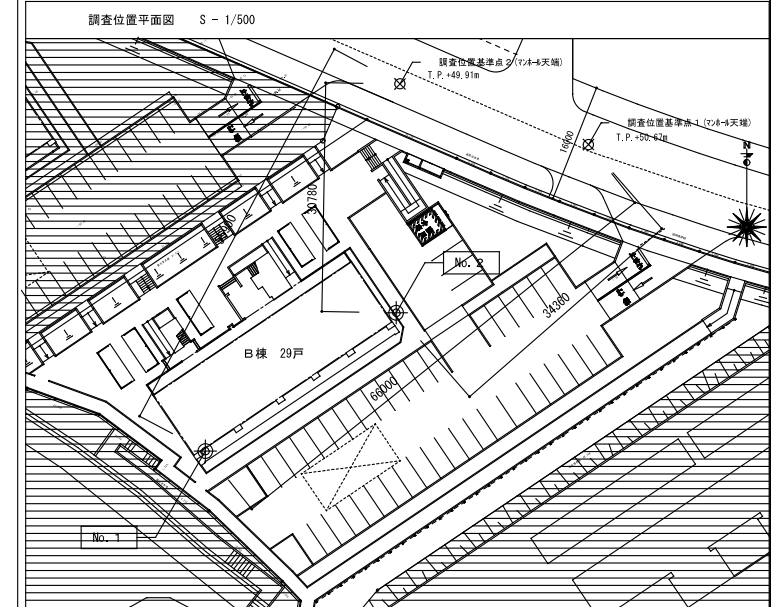
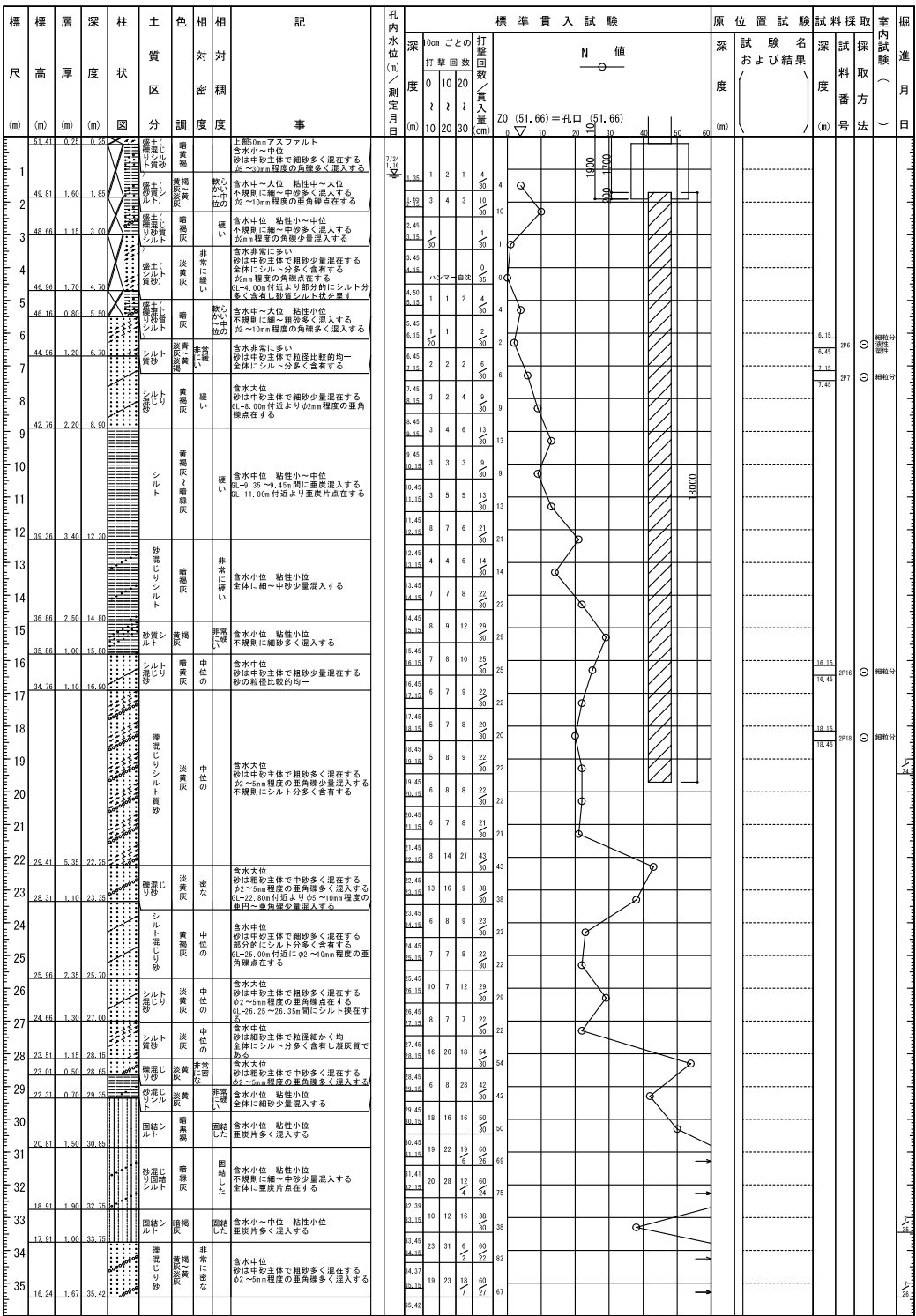
調査名 平成29年度 平針住宅地質調査(第5次)

ボーリングNo. 5 2 3 7 5 0 3 0 0 0 2

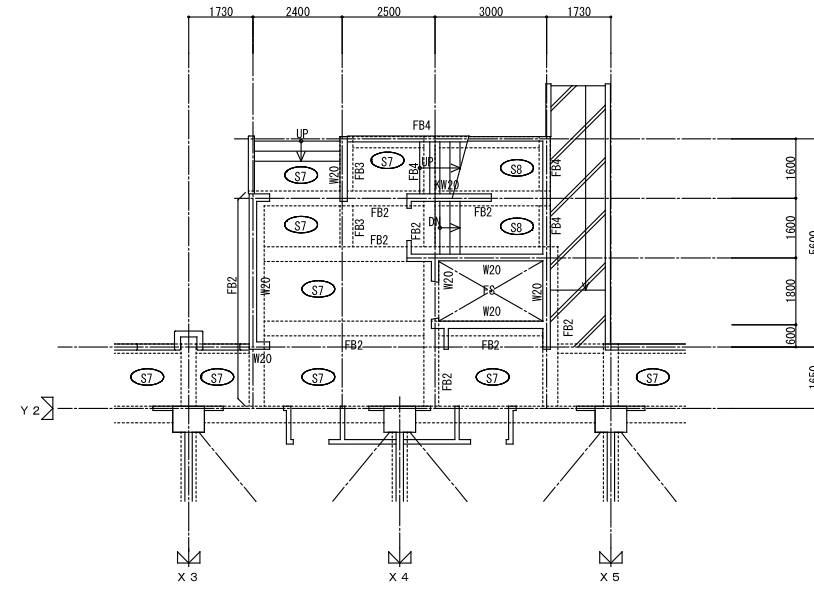
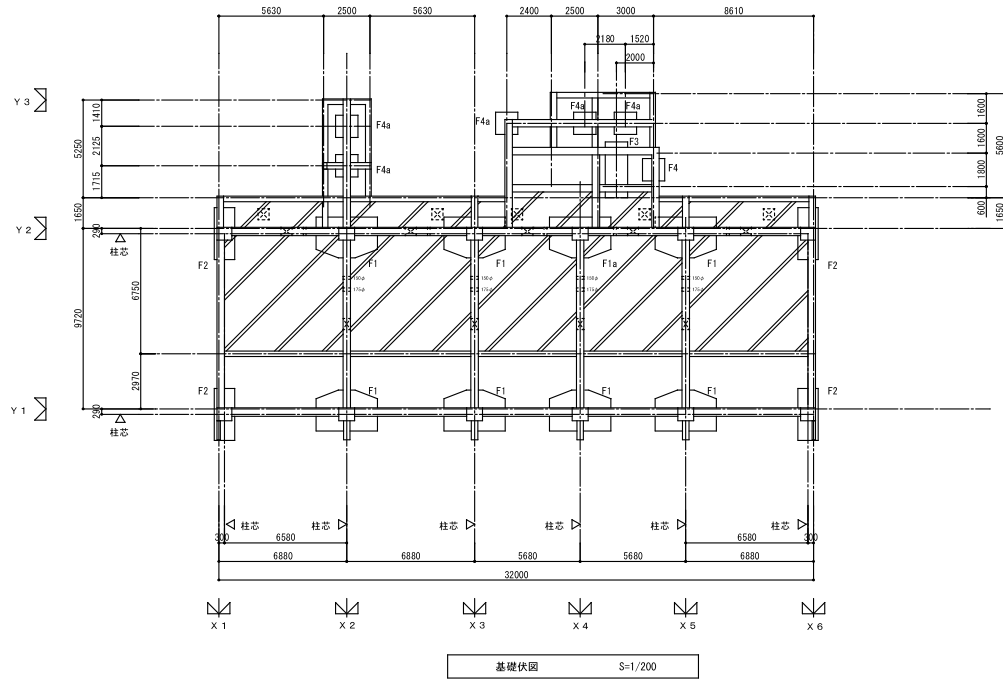
事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	No. 2	調査位置	名古屋市長白区平針南三丁目地内		北緯	35° 6' 35.7"	
発注機関	愛知県建設部建築局公営住宅課		調査期間	平成29年7月24日～29年7月26日	東経	137° 0' 19.0"	
調査業者名	富士興業株式会社 電話 052-781-5871	主任技師	田中 史郎	現代理人	上田 洋二	コピア 確定者	上田 洋二
ボーリング責任者	宮崎 晶三		試験機	YBM-05DA-2	ハンマー	落下用具	
使用機	半自動落下装置		エンジン	YANMAR NFD10	ポンプ	YBM GP-5	
孔口標高	T.P. +51.66m	角	方		地盤勾配		
総掘進長	35.42m	度	向		使用機		

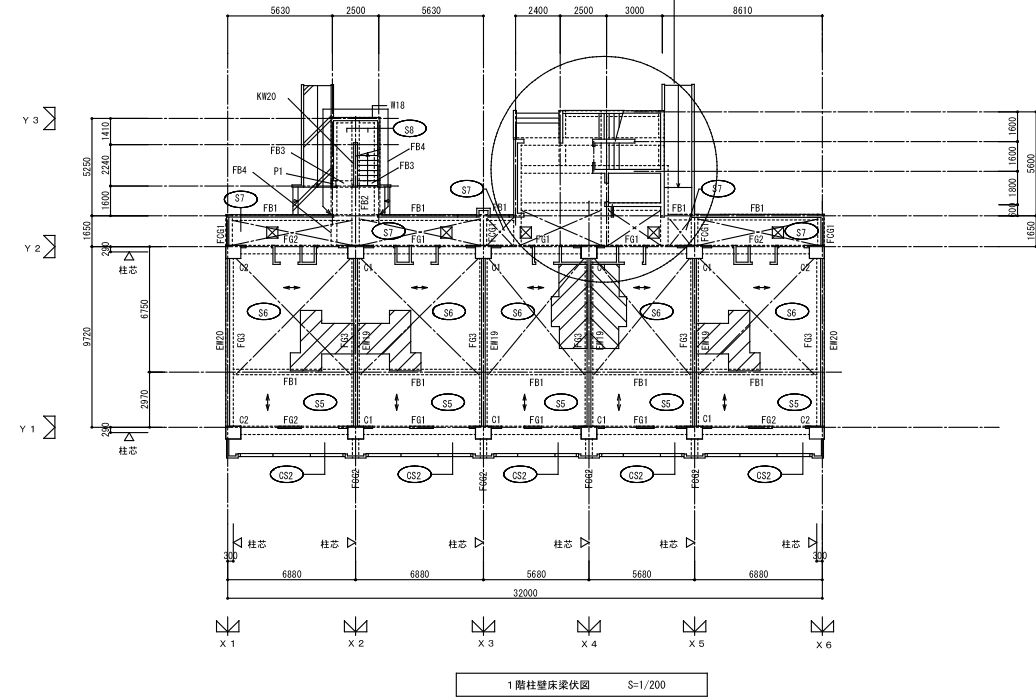
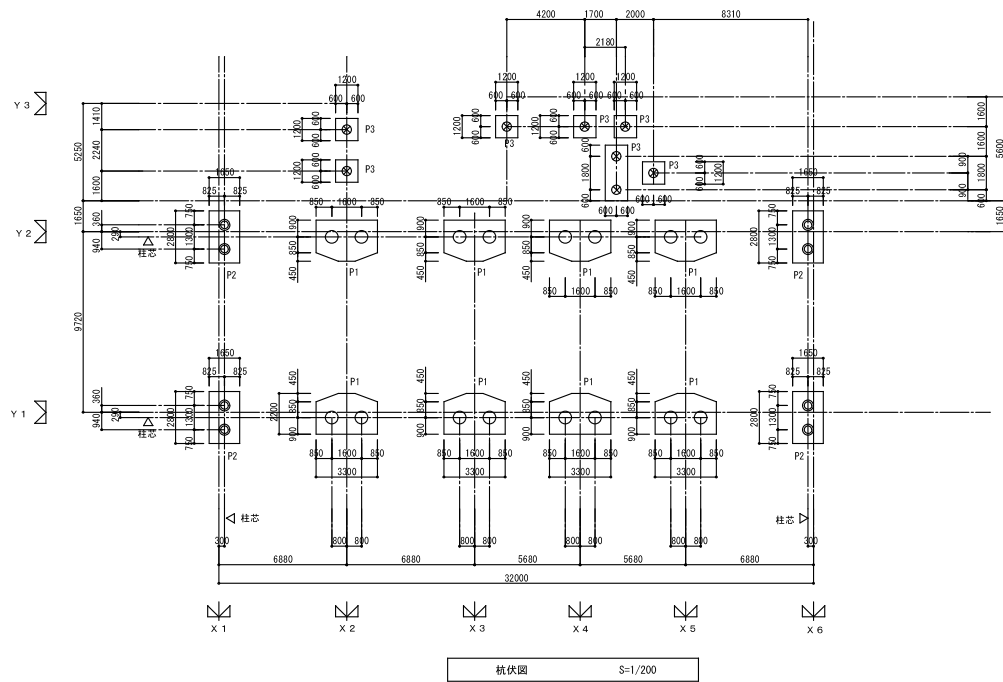


谷建築事務所	株式会社 本田建築設計事務所	平針住宅建築工事(第11工区)	図面番号
一級建築士 登録 第17394号 構造設計一級建築士登録番号 第433号 谷 洋	一級建築士 登録 第73615号 代表取締役 本田 伸太郎	ボーリング柱状図	縮尺 A1: 1/- A3: 1/- No. S10
構造関係規定に適合することを 確認した。	検 図	設 計	令和元年6月
愛知県建設部建築局公営住宅課			



外部階段、EV室部分拡大図 S=1/100

注) 特記なき限り下記とする。  
1. スラブ天端及び土間コンクリート天端は意匠図による。



杭仕様

・既製コンクリート杭

・Hyper-MEGA工法 (標準型)

(拡大掘削比  $\omega=1.23$ 、拡大掘削長 2.0m)

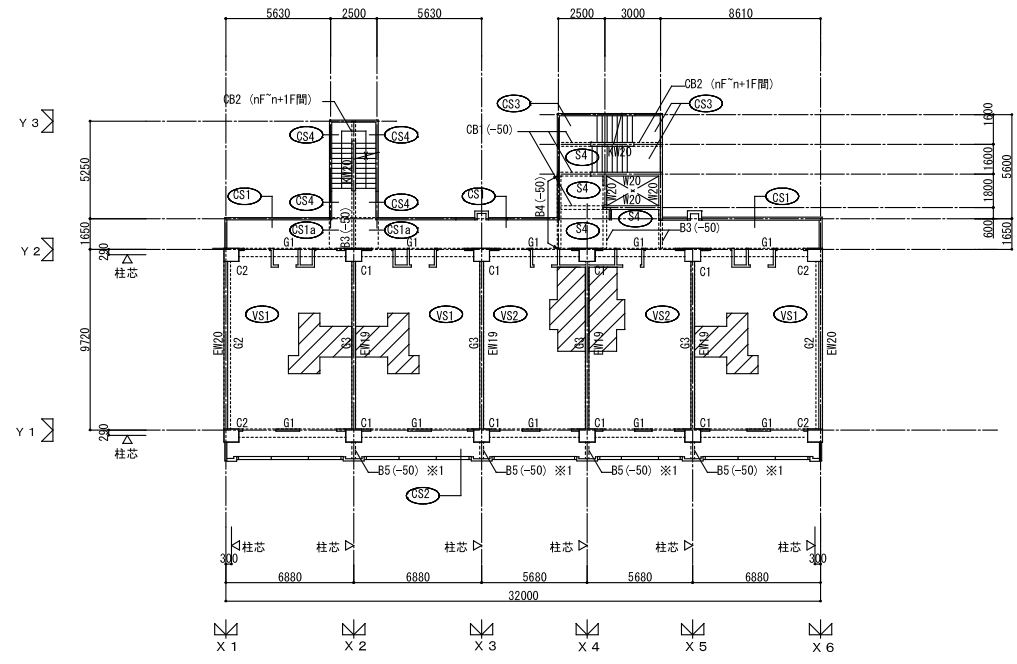
杭継手は、溶接又は機械式継手とし、機械式継手を採用する場合は、P1、P2においては有効率75%以上の強化型とする。

符号	P1			P2			P3		
凡例	○			●			⊗		
L	18m			18m			18m		
本数	16本			8本			8本		
長期地耐力	2300kN/本			1600kN/本			1100kN/本		
	杭種	径	L	杭種	径	L	杭種	径	L
上杭	HSC杭105 (SMK490, t=9.0)	φ700	5m	HSC杭105 (SMK490, t=9.0)	φ600	5m	CFRC杭105 (・種)	φ500	5m
中杭	FRP杭105 (B種)	φ700	5m	FRP杭105 (B種)	φ600	5m	FRP杭105 (B種)	φ500	5m
下杭	新付FRP杭105 (B種)	φ600-800	8m	新付FRP杭105 (B種)	φ500-650	8m	新付FRP杭105 (A種)	φ400-500	8m

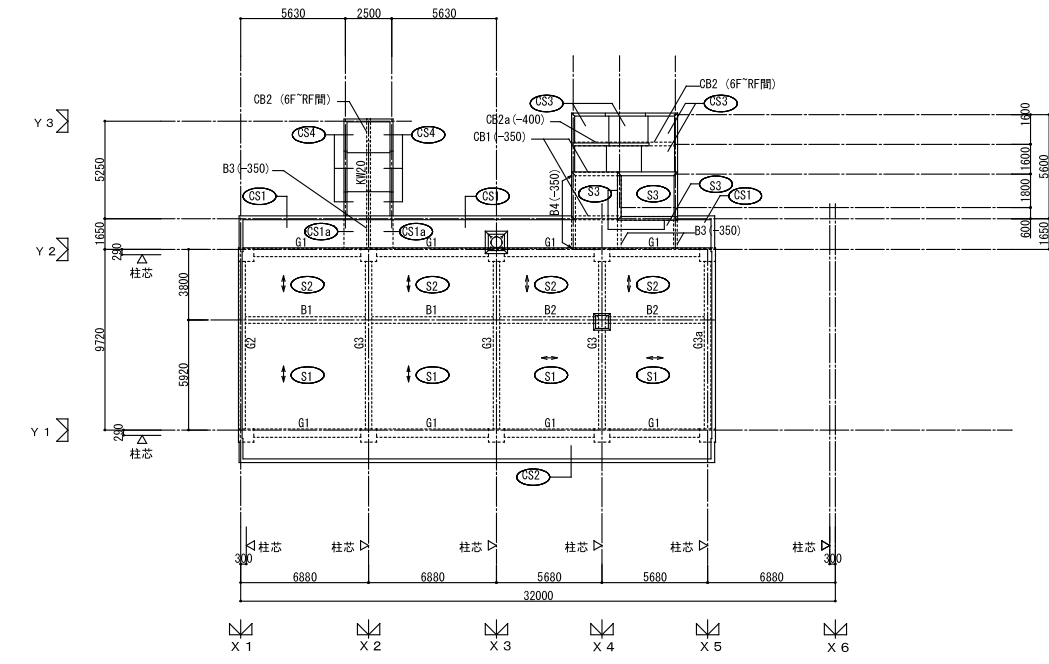
注) 特記なき限り下記とする。

- Z1=Z0+400とする。
- スラブ天端はZ1±0とする。
- < >内数値はスラブ天端レベル(Z1基準)を示す。
- は、土間コンクリート範囲を示す。(ピット部天端Z0+1000)  
(t=120, D10@200シングルクロス) ※スロープ部は意匠図による。
- は、スラブ天端Zn-100を示す。
- 基礎梁天端はZ0+200とする。
- ( )内数値は、基礎梁天端レベル(Z1基準)を示す。
- 杭芯の許容施工誤差は、100mmとし、100mm以上となった場合の補強方法は、係員の指示による。
- 壁は特記なき限りW12とする。
- は人通り(φ600)を示す。
- はピット範囲を示す。

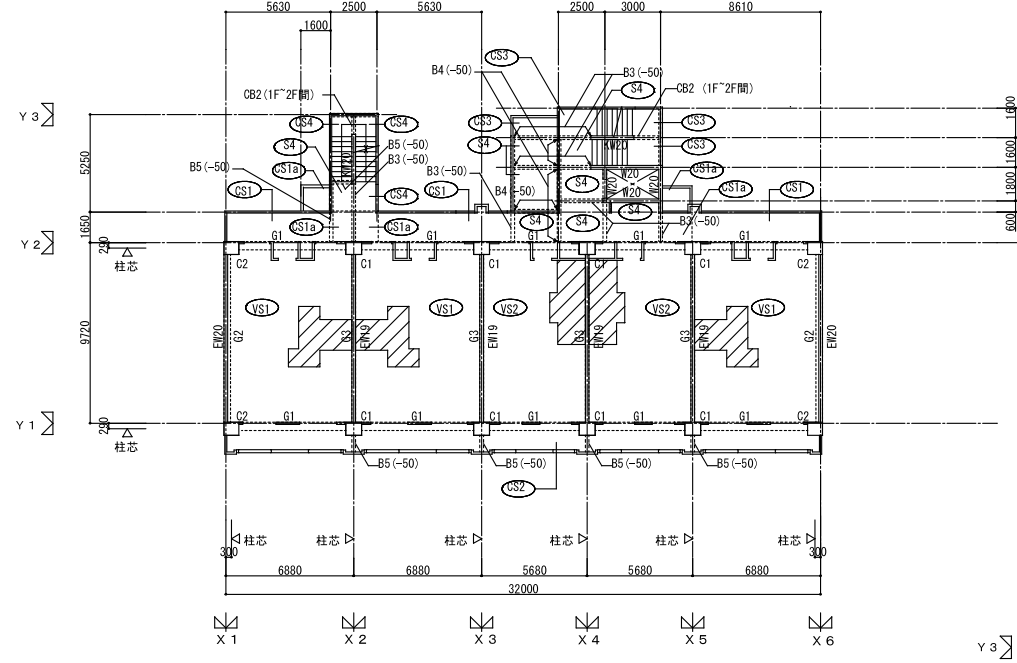
谷建築事務所	株式会社 本田建築設計事務所	平針住宅建築工事 (第11工区)		図面番号
一級建築士 登録 第173794号 構造設計一級建築士登録番号 第5433号 谷 淳	一級建築士 登録 第73615号 代表取締役 本田 神太郎	伏図(杭・基礎・1階)	縮尺 A1: 1/200 A3: 1/400	No. S11
構造関係規定に適合することを 確認した。		機 関	設 計 令和元年6月	愛知県建設部建築局公営住宅課



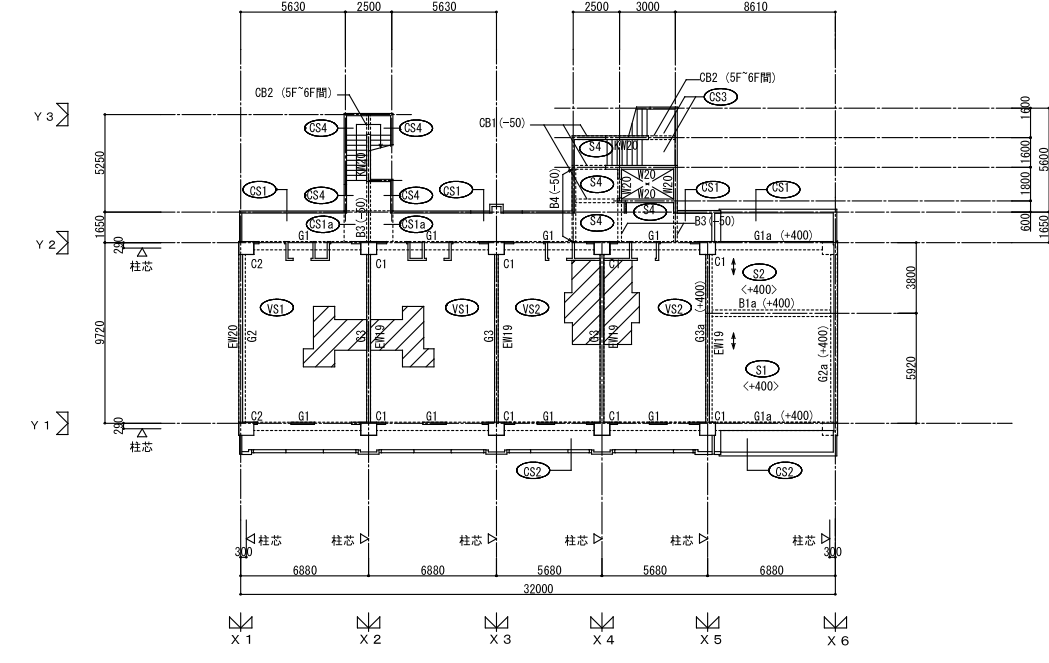
3~5階柱壁床梁伏図 S=1/200  
※1: 3階のみ



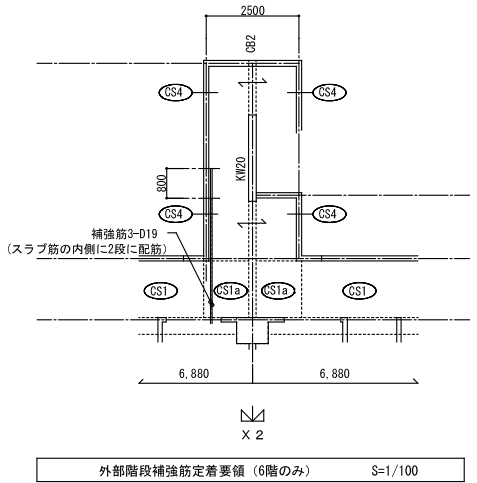
R階梁床伏図 S=1/200



2階柱壁床梁伏図 S=1/200



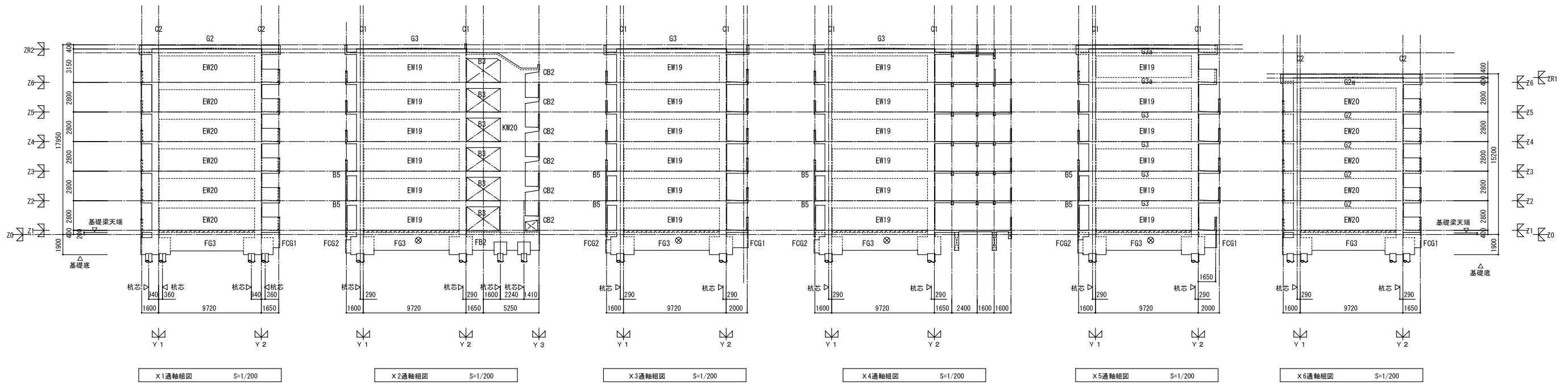
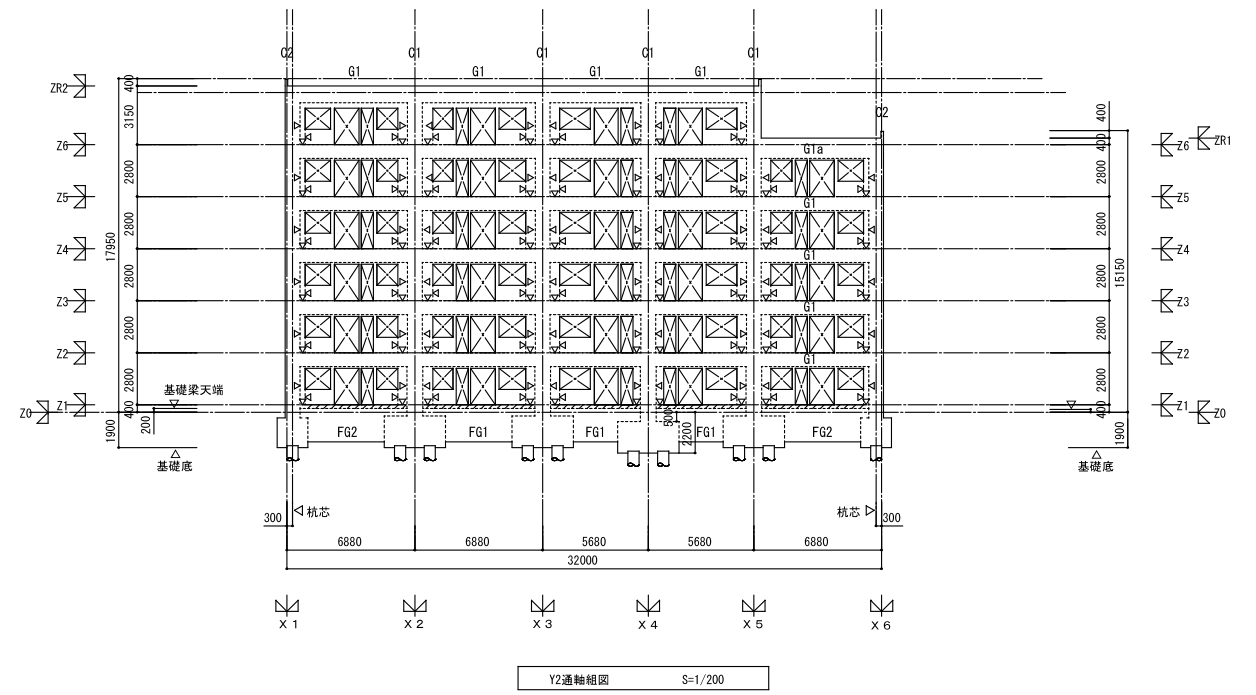
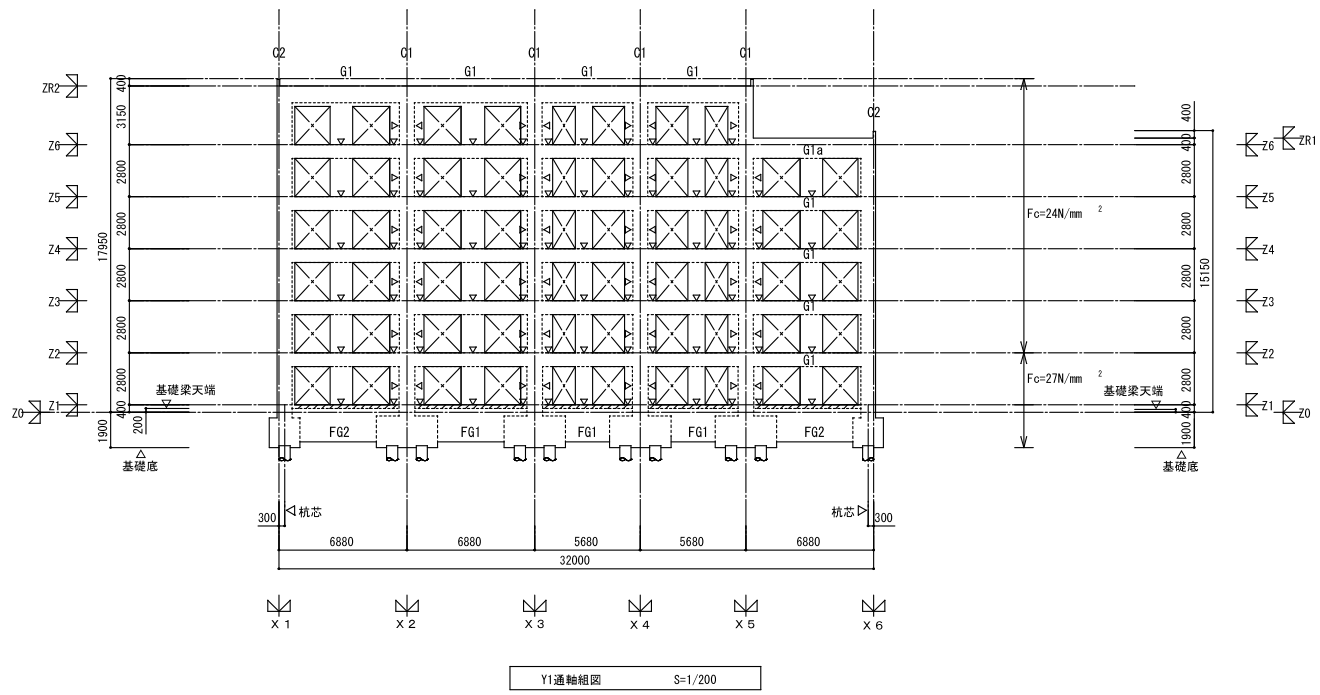
6階柱壁床梁伏図 S=1/200



外部階段補筋定着要領 (6階のみ) S=1/100

- 注) 特記なき限り下記とする。
1. スラブ天端はZn±0とする。
  2. RFスラブ天端は意匠図による。
  3. < >内数値はスラブ天端レベル (Zn基準) を示す。
  4. は、スラブ天端Zn-100を示す。
  5. はスラブの主筋方向を示す。
  6. 梁天端はZn±0とする。
  7. ( )内数値は梁天端レベル (Zn基準) を示す。
  8. 壁は特記なき限りW12とする。
  9. 基準階階段室・EVホールにスラブ天端は意匠図による。
  10. A, Bはスリーブを示す。

谷建築事務所	株式会社 本田建築設計事務所	平針住宅建築工事 (第11工区)		図面番号
一級建築士 登録 第17394号 構造設計一級建築士登録番号 第5433号 谷 淳	一級建築士 登録 第73615号 代表取締役 本田 伸太郎	伏図 (2階~R階)	縮尺 A1: 1/200 A3: 1/400	No. S12
構造関係規定に適合することを確認した。		検図	製図	設計 令和元年 6月
愛知県建築局公共建築部公営住宅課				

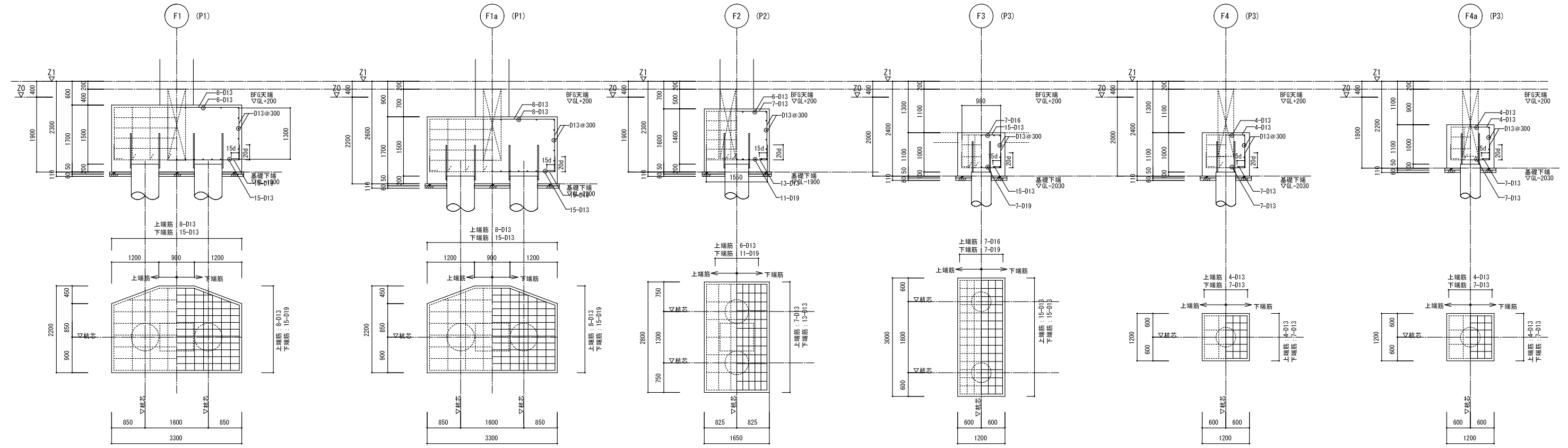


注) 特記なき限り下記とする。

1.  $\square$  はスリット位置を示す。
2. RFスラブ天端は意匠図による。
3. 特記なき壁はW12とする。
4.  $\otimes$  は人通孔を示す。(人通孔上下方向位置は、梁中央付近とする。)

谷建築事務所	株式会社 本田建築設計事務所	平針住宅建築工事 (第11工区)		図面番号
一級建築士 登録 第173794号 構造設計一級建築士登録番号 第5433号 谷 淳	一級建築士 登録 第73615号 代表取締役 本田 伸太郎	軸組図	縮尺 A1 : 1/200 A3 : 1/400	No. S13
構造関係規定に適合することを 確認した。		検 図	設 計 令和元年6月	愛知県建設部建築局公営住宅課





基礎梁リスト 1 / 50

・特記なき巾止め筋はD10-@1000とする。・特記なき限り柱梁接合部の水平投影長さは0.75D以上とする。

符号	FG1				FG2				FG3				FCG1		FCG2	
	位置	全断面	外端	中央	内端	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断面																
b × D		450 × 1800	450 × 1800	450 × 1800	450 × 1800	400 × 1750				350 × 1450				350 × 1250		
上端筋	1段筋	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	4-D25				3-D25				3-D25		
	2段筋	2-D25	4-D25	4-D25	3-D25											
下端筋	2段筋	2-D25	3-D25	3-D25	2-D25											
	1段筋	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	4-D25				3-D25				3-D25		
S T P		2-D13@200	2-D13@150	2-D13@150	2-D13@150	2-D13@200				□-D10@200				□-D10@200		
腹筋		6-D13	6-D13	6-D13	6-D13	6-D13				6-D13				4-D13		

基礎小梁リスト 1 / 50

特記なき巾止め筋はD10-@1000とする。

符号	FB1	FB2	FB3	FB4					
位置	全断面	全断面	全断面	全断面					
断面									
b × D	300 × 1450	400 × 1700	350 × 800	300 × 600					
上端筋	3-D19	4-D25	4-D22	3-D19					
下端筋	3-D19	4-D25	3-D22	3-D19					
S T P	□-D10@200	□-D13@200	□-D10@150	□-D10@200					
腹筋	6-D13	6-D13	2-D13	2-D13					

構造特記	
コンクリート	躯体
	2F柱~RF梁 $F_c = 24N/mm^2$ (設計強度)
	1F柱~2F梁 $F_c = 27N/mm^2$ (設計強度)
	基礎 $F_c = 27N/mm^2$ (設計強度)
土間	$F_c = 18N/mm^2$ (設計強度)
	捨て $F_c = 18N/mm^2$ (設計強度)
鉄筋	D16以下 SD295A 重ね継手 (JIS規格品)
	D19以上 SD345 ガス圧接 (JIS規格品)
	D29以上 SD390 ガス圧接 (JIS規格品)

コンクリート施工計画

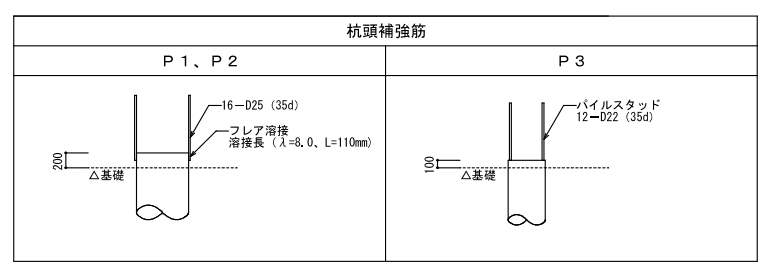
- 打込み、締め固め
- 打継ぎ部処理方法
- 養生方法
- 型わく及び支柱の除去

構造部材等の耐久性 (基準法適合)

- 構造部材の耐久性が令第37条に適合
- コンクリートの材料が令第72条に適合
- コンクリートの強度が令第74条に適合
- コンクリートの養生が令第75条に適合
- 鉄筋のかぶり厚さが令第79条に適合
- 構造方法に関する補足基準、令第80条の2に適合
- 平成13年国交令1025号に適合
- 法第20条第1項第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものについては建設告示第1388号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする。

鉄筋の最小かぶり厚さ			
土に接しない部分	耐力壁以外の壁・床	屋内	20
		屋外	30
土に接する部分	耐力壁・柱・梁	屋内	30
		屋外	40
		柱・梁・床・基礎立上がり部分	40
		基礎 (立上がり部分を除く)	60

※設計かぶり厚さは上記+10mmとする。  
(設計かぶり厚=鉄筋加工寸法 (スぺーサー管理値) とする。)



谷建築事務所	株式会社 本田建築設計事務所	平針住宅建築工事 (第11工区)		図面番号
一級建築士 登録 第173794号 構造設計一級建築士登録番号 第5433号 谷 淳	一級建築士 登録 第73615号 代表取締役 本田 伸太郎	基礎・基礎梁リスト	縮尺 A1: 1/50 A3: 1/100	No. S14
構造関係規定に適合することを 確認した。		検 査	製 図	設 計 令和元年 6月
愛知県建設部建築局公営住宅課				

柱リスト 1/50 ..... : DIA HOOP D10-#500

符号	C1	C2	P 1
6 階 (Fc24)			
b x D	800 x 700	800 x 700	
主筋	10-D22+4-D19	14-D22	
帯筋	□-D13@100	□-D13@100	
備考			
5 階 (Fc24)			
b x D	800 x 700	800 x 700	
主筋	10-D22+4-D19	14-D22	
帯筋	□-D13@100	□-D13@100	
備考			
4 階 (Fc24)			
b x D	800 x 700	800 x 700	
主筋	10-D22+4-D19	14-D22	
帯筋	□-D13@100	□-D13@100	
備考			
3 階 (Fc24)			
b x D	800 x 700	800 x 700	
主筋	10-D25+4-D19	10-D25+4-D22	
帯筋	□-D13@100	□-D13@100	
備考			
2 階 (Fc24)			
b x D	800 x 700	800 x 700	
主筋	10-D25+4-D19	10-D25+4-D22	
帯筋	□-D13@100	□-D13@100	
備考			
1 階 (Fc27)			
b x D	850 x 700	800 x 700	250 x 350
主筋	14-D25+6-D19	14-D25	8-D19
帯筋	□-D13@100 (SD345)	□-D13@100	□-D10@100
備考			

スラブリスト 1/50 特記なき巾止め筋はD10-@1000以下とする。

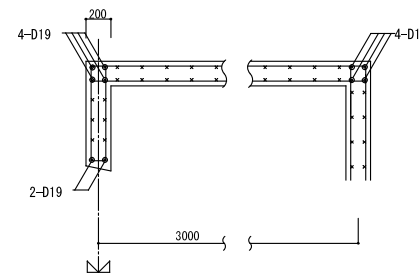
符号	スラブ厚	位置	短辺方向	長辺方向	備考
S1	180 (+10)	上端筋	D13-@200	←	
		下端筋	D10-D13-@200	←	
S2	180 (+10)	上端筋	D10-D13-@200	←	
		下端筋	D10-D13-@200	D10-@200	
S3	180~150 基端 先端	上端筋	D10-D13-@150	←	
		下端筋	D10-D13-@150	←	
S4	180~150 基端 先端	上端筋	D13-@150	←	
		下端筋	D13-@150	←	
S5	150	上端筋	D10-D13-@200	←	
		下端筋	D10-@200	←	
S6	200	上端筋	D13-@150	←	
		下端筋	D10-D13-@150	←	
S7	200~170 基端 先端	上端筋	D10-D13-@200	←	
		下端筋	D10-D13-@200	D10-@200	
S8	150	上端筋	D10-D13-@200	D10-@200	
		下端筋	D10-@200	D10-@200	
CS1	200~170 基端 先端	上端筋	D13-@150	D10-@200	
		下端筋	D10-@150	D10-@200	
CS1a	200~150 基端 先端	上端筋	D13-@150	D10-D13-@150	
		下端筋	D10-D13-@150	←	
CS2	180~150 基端 先端	上端筋	D13-@150	D10-@200	
		下端筋	D10-@150	D10-@200	
CS3	180~150 基端 先端	上端筋	D13-@150	←	
		下端筋	D10-D13-@150	←	
CS4	150	上端筋	D13-@150	←	
		下端筋	D10-D13-@150	←	
FS	250	上端筋	D13-@200	←	EVビット
		下端筋	D13-@200	←	

( ) は最上階のスラブの打増しを示す。

壁リスト 1/50

符号	W12	W18	W20	KW20	EW19	EW20
厚	120	180	200	200	190	200
水平断面						
縦筋	D10-@200シングル	D13-@200ダブル	D13-@200ダブル	D13-@200ダブル	D10-@200ダブル	D10-@150ダブル
横筋	D10-@200シングル	D10-@200ダブル	D10-@200ダブル	D10-@200ダブル	D10-@200ダブル	D10-@150ダブル
巾止め筋		D10-@1000以下	D10-@1000以下	D10-@1000以下	D10-@1000以下	D10-@750以下
開口補強	縦筋	1-D13	2-D19	2-D19		
	横筋	1-D13	2-D19	2-D19		
	斜め筋	1-D13	2-D13	2-D13		

E V壁端部配筋詳細図 1/30



谷建築事務所	株式会社 本田建築設計事務所	平針住宅建築工事 (第11工区)	図面番号
一級建築士 登録 第173794号 構造設計一級建築士登録番号 第5433号 谷 淳	一級建築士 登録 第73615号 代表取締役 本田 伸太郎	柱・スラブ・壁リスト	図尺 A1 : 1/50 A3 : 1/100 No. S15
構造関係規定に適合することを 確認した。		検 図	製 図
		設 計	令和元年 6月
愛知県建設部建築局公営住宅課			